

第36回小豆島オリーブマラソン全国大会

開催日: 平成25年5月26日(日)

場所: 香川県小豆郡小豆島町

種目	名前	学年	記録	着順・順位	備考
ハーフマラソン	港 菜月	1年	1時間31分12秒	総合2位 年代別1位(18~29歳)	
	山田 郁香	1年	途中棄権(8km)		体調不良
10km	床呂 沙紀	1年	40分38秒	総合1位 年代別1位(18~29歳)	
5km	尾崎 可南子	1年	19分31秒	総合1位 年代別1位(18~29歳)	

【山本コメント】

今大会は、大学の駅伝競技やトラックレースとは趣が違う、5000人規模の市民マラソン大会である。今大会に出場した一番の目的は、大会に参加している多くの意欲ある市民ランナーと一緒にレースを走ることによって、走ることに對する自分の動機の原因を見直すことである。また、小豆島は港菜月の出身地であり、港の頑張りや本学チームの存在を小豆島の多くの人たちに知ってもらうことも目的のひとつであった。

現状として、それぞれの距離を全力で走りきるにはまだ体力が不足しているため、好タイムは目標とせず、後半ペースダウンすることなく走りきることを目標とした。

ハーフマラソンでは、港がペースを維持して総合2位、年代1位に入賞した。これまでのトラックレースでは1500~3000mを中心に走っているが、ロードの長い距離を無難にこなした。レース後に、またハーフを走ってみたい、フルにも挑戦してみたいという感想が出てきたのは大きな収穫であった。山田は走る前から体調が悪かったようで、8kmを過ぎたあたりで途中棄権をした。

10kmでは床呂が、5kmでは尾崎が、総合、年代別とも優勝した。二人とも脚にやや不安があったので、うまくペースをコントロールして、大きくペースダウンすることなく走りきれたのは収穫だった。脚がよい状態になれば、今後のタイムの大きな短縮を望める。レース後は、より長い距離のレースに対する意欲も見られた。

市民ランナーの方々と同走したレースでそれぞれが考えたことを、今後の駅伝競技に活かしてほしい。